

Kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】 McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-*

Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology. 183—238 in

McC. Brooks, Ch. and Craneheld, P.F. (eds.):

The Historical Development of Physiological Thought. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の変更や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

投稿規定が平成五年六月一日付で改訂され、それから本号で計三号目となった。ただ大きな変化はなく、気付きにくい点もありそうなので、いくつかについて簡単に説明を加えたいと思う。

①欧文抄録には、新たに「対訳和文」の添付を求めた。かねてより欧文抄録は医学史に理解ある英語圏の方にチェックいただいているが、正確に行うには対訳和文も必要だ。

②日本人名の欧文表記は原則上、「名が先、姓が後」で「不自然な場合はケース・バイ・ケース」とした。これは欧文目次と本文で、かつて不統一がままあったのを避けるため。

③使用漢字を原則上、当用漢字から「常用漢字・人名用漢字以内」とした。当用漢字を昭和五十六年に拡充した常用漢字と、平成二年に常用漢字以外に拡充された人名用漢字に対応するため。

④参考文献・注の通し番号を、算用数字で「(1)(2)…」と示すことにした。これは従来、漢数字で書き分けが困難だった(一)(二)、(一二)(二三)等の混乱・誤植を防ぐため。

⑤原則として無料掲載の範囲を、以前の刷り上り「五印刷ページ」から「一〇印刷ページ」に広げた。これはすでに実行されている現状に合わせるため。

以上にご注意いただき、投稿規定を参照のうえ、どしどし原稿をお寄せ願いたい。とはいっても、杓子定規な遵守を求めるものでは毛頭ない。論文として必要な記載事項を統一するための、本誌なりの目安。正直なところ、編集委員会ではそう考えている。

(真柳 誠)